

国立モスクワ東洋美術館所蔵

# シルクロードのかざり◇中央アジアとコーカサスの美術

Central Asian and Caucasian Applied Art from the collection of the State Museum of Oriental Art, Moscow

1998年9月29日(火)―11月23日(月・祝) 千葉市美術館

開館時間=午前10時―午後6時(入場は午後5時30分まで)/金曜日は午後8時まで(入場は午後7時30分まで) 休館日=月曜日(ただし11月23日は開館)

主催=千葉市美術館/読売新聞社/美術館連絡協議会 協賛=花王株式会社 協力=日本航空

入場料=一般1000(800)円/大学・高校生700(560)円/中・小学生300(240)円\*( )内は団体30名以上および前売料金

〒260-8733千葉市中央区中央3-10-8 TEL.043-221-2311 お問い合わせ先=ハローダイヤル043-227-8600

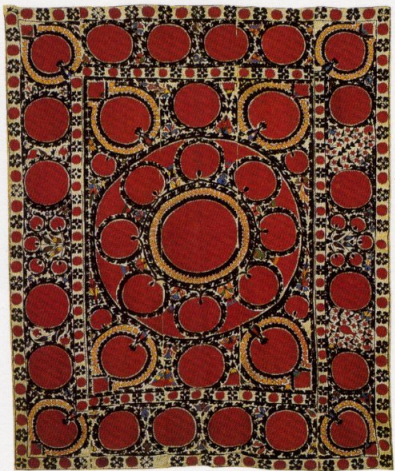
Central Asian and  
Caucasian Applied Art  
from the collection of  
the State Museum of Oriental Art,  
Moscow

《絨毯》(部分)カラバフ, 1902年





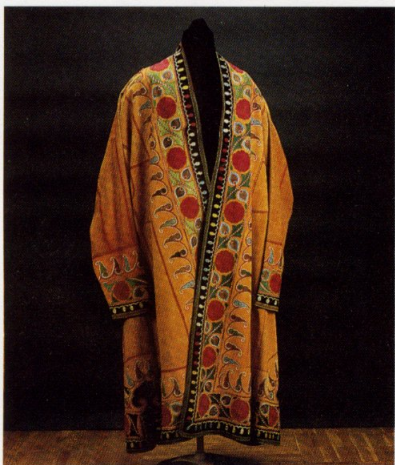
〈花瓶“グルドン”〉北タジキスタン、ホジェント、19世紀末



〈婚礼用の掛布“バリアック”〉ウズベキスタン、タシケント、19世紀末



〈らくだの前飾り〉アゼルバイジャン、19世紀



〈男性の衣装〉カザフスタン、19世紀末

かつてシルクロード草原ルートを中心に発展した地域・民族の中でも、トルファンより先に広がる中央アジア、さらにカスピ海西岸のコーカサス(カフカス)は、日本ではいまだ知られざる世界といえるでしょう。しかし長く民族の攻防を続けた歴史をもち、現在も国の単位をはるかに越えた多くの民族が暮らすこの地域で、それぞれの民族が誇りをもって生活の中に育んできた美意識には注目すべきものがあります。

この展覧会は、18～20世紀前半に制作された染織品、装身具、絨毯、金工品、陶磁器などの工芸品280点あまりを通して、民族の身近に息づいてきた美の在り方をとらえ、その力強く熱狂的なまでの“物をかざる”という美への行為を間近に感じていただくとするものです。鮮やかな色彩、大胆な意匠、それらを実現するための丹念な仕事……なぜ人々は“かざり”に惜しみないエネルギーをそそぎ続けているのでしょうか。

それは多く装飾的な志向に特徴の表われる日本の美意識とも全く無関係とは思えないほどに、我々にとって親しい感覚のある熱狂です。中央アジアのウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、カザフスタン、キルギスタン、そしてコーカサスのダゲスタン、アゼルバイジャン、アルメニア、グルジアへ、遠いけれどもかつて確かに結ばれていた美から美へ、シルクロードをたどるように旅してみたいと思います。

この地域の美術を紹介する総括的な展覧会は日本でも初めてであり、新たなアジア美術への視点が開かれることが期待されます。

## Central Asian and Caucasian Applied Art from the collection of the State Museum of Oriental Art, Moscow

国立モスクワ東洋美術館は、ロシアで唯一、東洋美術に専心してこれを収集、展示する美術館として知られています。アジアの美術を広く収蔵していますが、なかでもモスクワから最も近いアジアである中央アジア、カスピ海の西に広がるコーカサスは、旧ソ連の国々であり、その美術工芸品のコレクションは、この美術館の核ともなっています。

### ■ギャラリートーク

毎週水曜日午後2時より 講師=当館学芸員

### ■講演会[当館11階講堂にて(先着150名)]

10月4日(日)午後2時より

講師=アイヌラ・ユスポワ氏(国立モスクワ東洋美術館学芸員)  
演題=「キルギスタン—遊牧民の心と美—」

10月31日(土)午後2時より

講師=杉村 棟氏(龍谷大学教授/国立民族学博物館名誉教授/本展監修者)

演題=「コーカサスの自然・生活・美」

11月15日(日)午後2時より

講師=辻 惟雄(千葉市美術館館長)

演題=「アジアの情熱—かざりの美意識—」

### ■さや堂コンサート[申込制150名定員]

11月3日(火・祝)午後2時より

出演=新ブダペスト弦楽四重奏団

演目=ポロディン作曲「弦楽四重奏曲第2番ニ長調」ほか

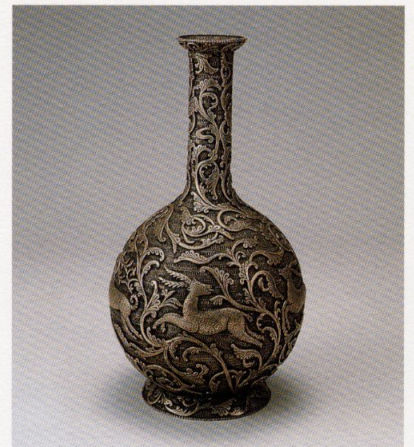
場所=当館1階さや堂ホール

お申し込みは10月15日(木)10時より当美術館(TEL.043-221-2311)まで。本展覧会入場券の購入が条件となります。

### ◎次回企画展ご案内

「草月とその時代」展

12月5日(土)—1月10日(日)



〈花瓶〉アルメニア、20世紀



〈男女の人の形のワイン器〉グルジア、20世紀



〈頭飾り“ブトンティルノック”〉ウズベキスタン、ホレズム、19世紀後半

### [交通案内]

●JR総武線千葉駅東口より徒歩15分

●JR千葉駅東口より

京成バス大学病院行(のりば7)「大和橋」下車徒歩2分  
京成バス矢作台市営住宅・川戸行(のりば7)または小湊バス八幡宿駅行(のりば4)「広小路」下車徒歩1分  
無料巡回バス「チーバス」(のりば19)「中央区役所・美術館前」下車(11:00-18:00の毎時05分と35分)に出発・水曜運休)

●京成千葉中央駅東口より徒歩10分

